

拠点形成研究交流報告：公開シンポジウムをハイブリッド形式にて開催しました。

第55回 日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会と共催で、東北大学青葉山コモンズ翠生ホールでの対面とオンラインのハイブリッド形式にて共催シンポジウムを開催いたしました。「薬に頼らない食糧生産」というテーマのもと、東北大学大学院農学研究科附属食と農免疫国際教育研究センター(CFAI)センター長の北澤春樹教授には「抗ウイルス性イムノバイオティクスの応用基盤研究」というタイトルで全体のオーバービューとCFAIの活動内容、そしてプロバイオティクスによる腸管粘膜免疫調節機構について講演いただきました。また、同じくCFAIメンバーでもある東北大学大学院農学研究科植物病理学分野教授の高橋英樹先生には「キュウリモザイクウイルスのシロイヌナズナへの不顕性感染は条件的相利共生なのか?」というタイトルで、近年のゲノム解析技術から明らかとなった、自然界に生育する植物中の不顕性感染ウイルスの存在と不顕性化メカニズムについて講演いただきました。神戸大学農学研究科 食の安全・安心科学センターの大澤朗教授には「動物実験に依らない機能性食品の開発：食品成分のヒト腸内での動態を考慮して」というタイトルで、共培養によるヒト小腸モデルや連続嫌気培養装置によるヒト大腸環境モデルの開発によって明らかとなった、“わかっているようでわかっていなかったこと”について講演いただきました。

会場からの多くの質問もあり、活発な討議がなされました。

座長の白川仁教授 (東北大)



北澤春樹教授の講演



大澤朗教授の講演



質疑応答の様子



文・大崎雄介、白川仁